

公益社団法人 京都観世会

令和5年度事業報告書

<概況>

本年度は、3年以上にわたり社会を混乱させ続けたコロナ禍の転換点を迎え、人流も再び活発化するなど、明るい兆しを感じられる一年でした。また、刻一刻と変化する社会経済環境や国際状況など課題も多い中ではありましたが、京都観世会館創立65周年を迎え、記念日の催しなど会員の連帯の力の発揮・協力のもと、新たな視点や方向性を探りながら積極的な事業活動を展開することができました。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行したことを受けて、計画の重点方針に基づき、当会の目的、立ち位置、存在意義などを点検・見直すことに努め、来館者に対し必要な感染症対策を講じながら、安全安心な施設運営に努めた活動に取り組み、公演事業のすべてを着実に実施いたしました。

さらに、昨年度に引き続き文化庁主催の能楽の祭典としてコロナ禍の萎縮効果を乗り越え、地域の文化芸術の振興を推進する全国規模で展開された能楽キャラバンに参加して多くの方に文化芸術のすばらしさをお届けしました。

また、中央省庁初の移転となる文化庁が京都で業務開始となり、地方創生や文化振興の社会への波及効果も新たなステージへ進むことの期待が膨らむこととなりました。

一方で、長年のデフレ経済から、円安の為替要因や人手不足による急激な物価高騰となり、法人運営や公演事業のコストの上昇から大きな打撃を被り、10月からは、インボイス制度が導入され、経理面に影響を及ぼす新たな事務負担が発生し、運用ルールの見直しや変更などの対応に迫られました。

我々を取り巻く環境は今後も激しい変化や厳しい状況も予想されますが、厳しい時代を乗り越えてきた先人の知恵と工夫や労苦を礎に、事業計画に沿って、安定的な運営・成長に向けて土壌を耕し、活動基盤の充実を図り、幅広く活力ある活動を実効的に推進していくことといたします。

——事業の実施状況——

<演能会の実施>

京都観世会会員の能楽師が企画・出演する演能会は、会の創設以来継続して行ってきた当会の事業の根幹をなすものであります。本年度も多様な上演形態により、広く一般に「能楽」の鑑賞機会を提供し、普及啓発を図るとともに、技術・技能の伝承の観点から中堅、若手の積極的な育

成に努めました。

(1) 京都観世会例会

京都観世会の自主公演の中心となる定期会。

通年事業として活動し、幅広く多くの方々の来館を促して鑑賞いただくことを目指す普及・啓発・振興の中心的役割として展開しております。

1月例会 「翁」「高砂」「小塩」「金札」 2月例会 「弱法師」「番囃子：百萬」「鞍馬天狗」
3月例会 「白鬚」「東北」「船橋」 4月例会 「邯鄲」「雲雀山」「阿漕」
5月例会 「芦刈」「杜若」「鶉飼」 6月例会 「賀茂」「楊貴妃」「錦木」
8月例会 「通小町」「江口」「鉄輪」 9月例会 「咸陽宮」「仏原」「玄象」
11月例会 「清経」「班女」「名取ノ老女」 12月例会 「小督」「龍田」「大江山」

(2) 観世青年研究能

「京都府次世代等古典芸能普及促進公演」として師匠の指導のもと若手による清新な舞台が演じられました。

8月 「菊慈童」「船弁慶」

(3) 春・夏の素謡と仕舞の会

普段の能公演とは異なる形態で、素謡（能一曲をシテ方地謡数名のみで型・囃子を加えず、謡だけで上演する）と仕舞（能の一部分だけを、シテ方一人で面・装束を着けず紋付袴のまま地謡だけで演ずる）で構成する会の公演を行いました。

春 3月 「養老」「采女」「砧」「山姥」

夏 7月 「通小町」「松風」「景清」「融」

(4) 京都観世能

客演を招聘せず京都観世会のベテラン・中堅を起用して、至芸に触れていただく年に一度の特別公演を開催しました。

10月 「屋島」「求塚」「望月」

(5) 能楽教室・狂言教室

ホームページ等で募集・受付を行い、全国の中学校・高等学校の生徒を対象に、伝統芸能に対する理解を助け、学習をより効果的に行う一助として、能・狂言を鑑賞してもらう能楽教室・狂言教室を開催しました。

本年度は新型コロナウイルス感染症の5類移行以降に開催が相続き、7回の開催ができました。

1月1回、5月1回、6月3回、7月1回、9月1回

(6) 特別能（降誕会能）

京都における能楽行事として、西本願寺より依頼を受けて本願寺の南能舞台（重文）にて

上演、一般公開しました。

5月 「菊慈童」「班女」

(7) 面白能楽館 (企画能)

京都観世会の中堅・若手が中心となり、能の初心者や子供向けに楽しんでいただく企画能を開催しました。コロナ禍で殆どできなかった能楽体験（一畳台、杵杵輪、萩小屋、数珠づくり）は多くのお客様にお楽しみいただき、また工夫を凝らした特殊照明を取り入れ、サイリウムや数珠を使った応援上演の演出も、通常の能公演とは雰囲気が変わり一味違う舞台を鑑賞していただきました。

7月 舞囃子：「舍利」「三山」「橋弁慶」 能：「安達原」

(8) 伝承の会

伝統を次世代に受け渡す大切な事業と位置付けて長期的なビジョンを持ち、新しい世代の担い手の発掘と育成、幅広い世代の鑑賞者の創出・育成に取り組んでいます。

次代を担う若手の鍛錬の成果を披露する舞台としてメディアに取り上げられるなど、能楽文化の振興・伝承に好循環をもたらす環境づくりにつながりました。

11月 能：「経正」「小鍛冶」 舞囃子：「弓八幡」「吉野天人」「春日龍神」

(9) 能楽チャリティ公演 (有志) ～祈りを届け、京都より～

世界各地での紛争や自然災害により多大な被害や影響を受けている多くの方々を支援するため、京都在籍の能楽師有志によるチャリティ公演を開催しました。

8月 第1部「敦盛」「雷電」 第2部「胡蝶」「葵上」

(10) 日本全国能楽キャラバン公演

文化庁の補助金施策アートキャラバン事業として、能楽協会との共催で企画開催した公演で、本年度は下記4公演を実施しました。

- ・大江能楽堂公演 1月 「巴」「卒都婆小町」
- ・下関公演 1月 「屋島」「葵上」
- ・新春特別公演 1月 第1部「養老」「熊野」 第2部「葛城」「小鍛冶」
- ・福井公演 8月 「三輪」「道成寺」

<能楽堂の設置と維持運営>

京都における能楽文化振興の拠点となる能楽堂を維持運営し、自主公演や舞台整備等で必要な日程以外は、能楽、伝統芸能の保存振興のための公演や、素人発表会・練習会・申合・稽古などに対して、施設を利用に供しました。

令和5年度の利用日数は238日間となっています。

<能楽道具の保存と伝承>

公演で利用する道具の制作と保存・保管を京都観世会館内において行い、保存伝承とともに能楽公演実施を支えています。

<研究・普及啓発及び会報の頒布>

能楽の研究及び情報提供によって能楽への興味・関心を深めてもらい、普及を促す趣旨で取り組んでいます。

- (1) 機関誌「月刊能」を年間12号（各号約2,000部）発行し、会員・申込者・社員への頒布のほか、大学・能楽堂・図書館・報道機関への寄贈を行いました。
- (2) 舞台利用者の音声映像の録音録画、能楽囃子の練習テープなどを廉価で提供しました。
- (3) 浅野文庫をはじめとする当法人への寄付や寄託を受けた年代資料を、将来的に活用する為に、整備ならびに保存の必要があるとしてアーカイブ作業などを行い、その成果の一部を「月刊能」にて紹介しました。
- (4) 会館創立65年の記念日に「無料開放デー」を実施し、能舞台のあらましや能の楽しみ方等を能楽師が舞台でお話しし、開館当時の新聞記事や月刊「観世」の記事等の展示と共に、多くのお客様に楽しんでいただきました。また7月～8月にかけて、京都観世会会員が所有する「能舞台めぐり×スタンプラリー」を実施したところ、7会場にのべ2,140名の来場者があり、どの会場も大盛況のうちに終えることができました。

<収益事業>

- (1) 駐車場の運営
会館隣接地で時間貸駐車場を運営し、来場者や出演関係者にご利用いただきました。
- (2) 会館施設の貸与
会館内のサービスの充実、利便性の向上を図ることを目的に、能楽関連書籍・用品の売店と食堂開設のコーナー貸しを行いました。

<法人運営>

- (1) 広報活動の状況
ホームページを通じて公演情報、例会会員入会のお勧め、能楽フォトライブラリーの配信など、情報公開・提供により広報活動を充実させ普及に努めました。
併せて、伝承の会及びサポーター制度のマスコミへの情報提供・取材協力により、公演活動の周知を図り、広く関心を引き起こすことができました。
なお、ホームページにつきましては、情報をより見やすく、また、海外の方にも利用いただけるウェブサイトへと改修して対応をいたしました。

(2) 文化振興費補助金による助成（舞台芸術等総合支援事業）

我が国の舞台芸術の水準を向上させる牽引力となっているトップレベルの芸術団体が国内で実施する舞台芸術の創造活動を助成するもので、京都観世会の例会・復曲試演の会・京都観世能・伝承の会が複数年(3年)支援を受けております。

(3) 庶務・管理（会議の開催に関する事項）

①社員総会 通常総会を2月26日に開催

②理事会 5回開催（2月7日・2月26日・6月25日・9月24日・11月26日）

③理事連絡会 6回開催（1月6日・3月26日・4月23日・5月28日・8月27日・
10月22日）

(4) 能楽普及活動の拠点事務所設置

京都における能楽文化振興の拠点となる能楽堂の維持運営及び演能会の実施に関する作業を行いました。令和5年度の営業日数は304日間となっております。